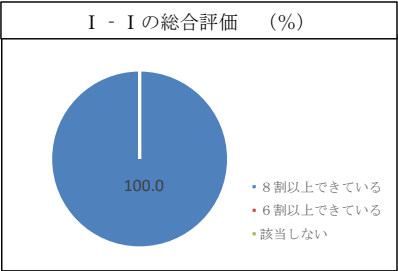
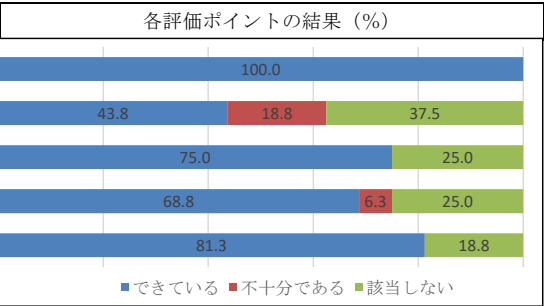


自己評価チェック表

～保育の基本理念と実践に係る観点～

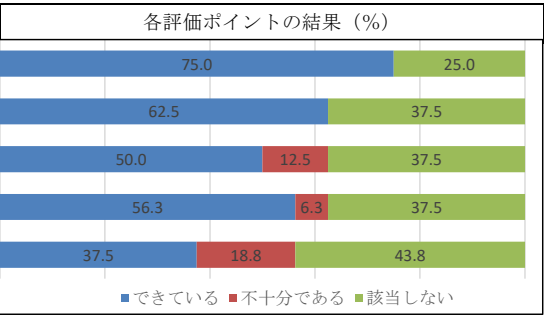
< I - I 日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか>

評価ポイント	すべての子どもについて、一人一人の存在とその人権を尊重している。
	保育指針を読み、全体的な計画に基づき、年齢ごとに指導計画（年・月・週案）を作成している。
	態度、表情、言語などから子どもの意思を汲み取り、指導計画を作成している。
	子ども一人一人の発達の姿や興味の対象の実態を把握して、指導計画を作成している。
	指導計画が、実際の子どもの姿、興味・関心に合っていたかという視点から自分の保育を評価、見直しをしている。



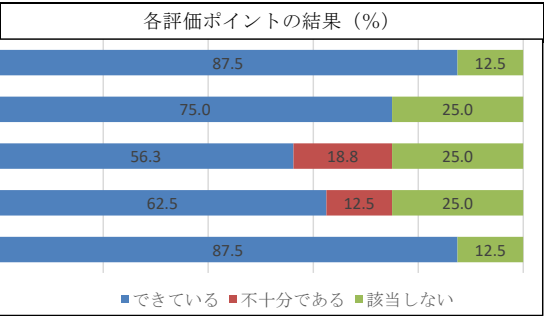
< I - II - I 乳児保育（0歳児）において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか>

評価ポイント	喃語には、ゆったりと応えたり、やさしく話しかけたりして、発語の意欲を育んでいる。
	しぐさや声や動きを介して発する欲求を察知し、タイミングよく応答している。
	一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かせるようにしている。
	絵本を見せながら、その子の指さすものに答えたり、やさしい言葉を添えたりして、あなた自らもそのやり取りを楽しむことができている。
	連絡ノートを活用するなどして、家庭での子どもの様子も把握するように努めている。



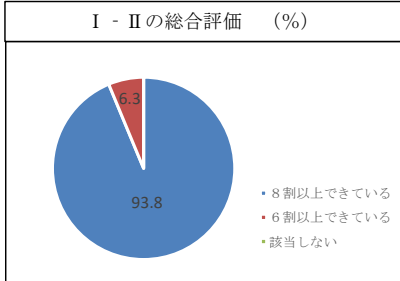
< I - II - II 1歳以上3歳未満児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか>

評価ポイント	自分できようとする気持ちを大切に、見守ったり、受け止めたり、応答的な対応をしている。
	体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行い、子どもに合わせた対応をしている。
	一人一人の発育に応じて走る、跳ぶ、登る、引っ張るなど、全身を使う遊びが楽しめるようにしている。
	探索活動が十分行えるよう、安全にはよく気を配りつつ、活動しやすい環境を整えている。
	つまづきや葛藤、けんかなどを、子どもの育ち（発達）に欠かせないものとしてとらえ、友達との仲立ちをしている。



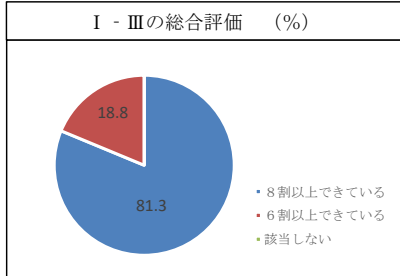
< I-Ⅱ-Ⅲ 3歳以上児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか>

		各評価ポイントの結果 (%)			
評価ポイント	3歳児の保育では、集団の中で安定して、遊びを中心とした興味関心のある活動を行っている。	37.5	62.5		
	4歳児の保育では、集団の中で自分の力を発揮し、友達とともに楽しめるよう遊びや活動を行っている。	37.5	62.5		
	5歳児の保育では、集団の中で一人一人の個性が生かされ友達と協力して一つのことをやり遂げるような遊びや活動を行っている。	31.3	6.3	62.5	
	遊びを中心とした保育の中で、主体的な環境を整え、十分に体を動かすことができるように働きかけている。	56.3		43.8	
	保育所保育指針に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて、保育内容や保育方法を考えている。	62.5	6.3	31.3	
		■できている ■不十分である ■該当しない			



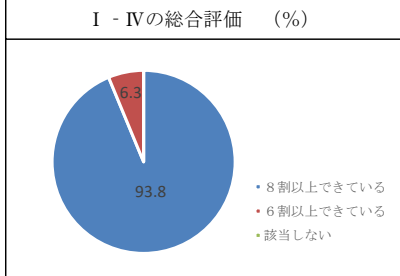
< I-Ⅲ 子どもが快適に過ごせるような環境、子どもの発達に応じた環境が確保されているか>

		各評価ポイントの結果 (%)			
評価ポイント	保育所の屋内・外ともに、常に清潔に保たれ、採光、温度や湿度、換気、照明等が適切な状態である。	75.0	18.8	6.3	
	低年齢児には、心も体もゆったりとくつろげるような保育室の使い方、時間を工夫している。	75.0	18.8	6.3	
	子どもの発達に即した玩具・遊具・用具を用意している。	75.0	25.0		
	子どもたちが一緒に関わりあう喜びを味わう場や機会を設け、人との関わりを育む環境を用意している。	100.0			
	心の安らぎや、豊かな感情を育むために、自然と関わる体験を大切にしている。	93.8	6.3		
		■できている ■不十分である ■該当しない			



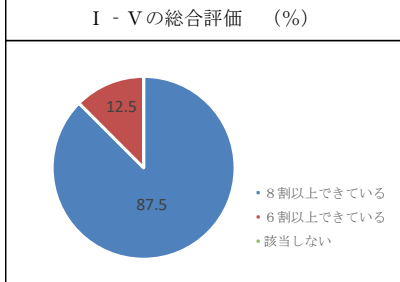
< I-Ⅳ 一人一人の全ての子どもに適切な対応ができているか>

		各評価ポイントの結果 (%)			
評価ポイント	日頃から子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱めるなどの精神的苦痛を与えることがないようにしている。	100.0			
	様々な理由で配慮が必要な子どももありのままの姿を受け止め、他の子どもとの関わりの中で互いの良さを感じ取るように配慮している。	93.8	6.3		
	虐待の定義を理解し、虐待を疑われる子どもの早期発見に努めている。	93.8	6.3		
	子どもの国籍や文化（言語・表現・食事等）、生活習慣、考え方の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	100.0			
	アトピー性皮膚炎・食物アレルギー等のアレルギー疾患について理解し、保護者との連携を密にしている。また食物アレルギーにおける誤食事故のないよう、適切な対応をしている。	68.8	25.0	6.3	
		■できている ■不十分である ■該当しない			



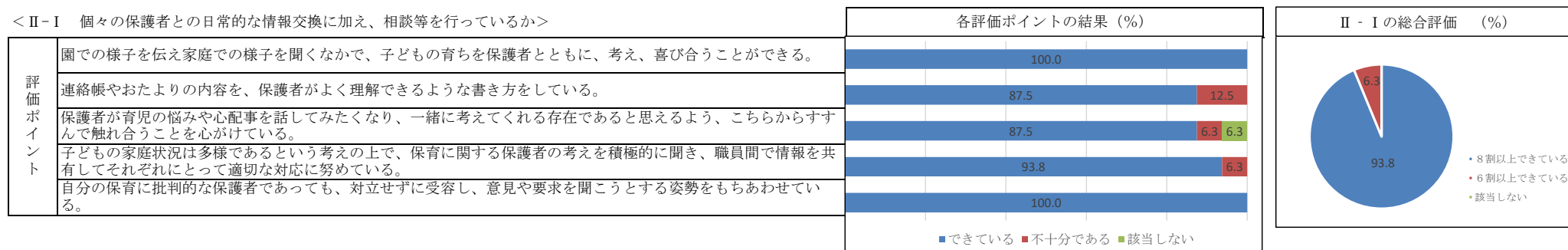
< I-V 保育内容を実施する中で配慮をしているか>

		各評価ポイントの結果 (%)			
評価ポイント	園生活のなかで、順番を守るなどきまりの大切さを理解できるように、年齢に応じた丁寧な説明をしている。	100.0			
	子どもが歌やリズム、絵や文字、体を動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮している。	87.5	12.5		
	子ども同士が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることにも気づけるように援助している。	93.8	6.3		
	食事を豊かに楽しむ工夫をしている。偏食や残さず食べることを直そうと、過度に叱ることがないように配慮している。	87.5	12.5		
	安心して心地よい眠りにつけるよう、午睡・休息の場を工夫している。一人一人の生活リズムや体調等を把握した上で、睡眠の時間を調節したり、眠くない子に午睡を強要せず、静かに過ごさせるなど柔軟性を持ち合わせている。	87.5	12.5		
	おもらしをした子どもを激しく叱ったり、心を傷つけるような対応をしてはならないことを認識している。排泄は個人差があることを十分配慮して対応している。	100.0			
		■できている ■不十分である ■該当しない			

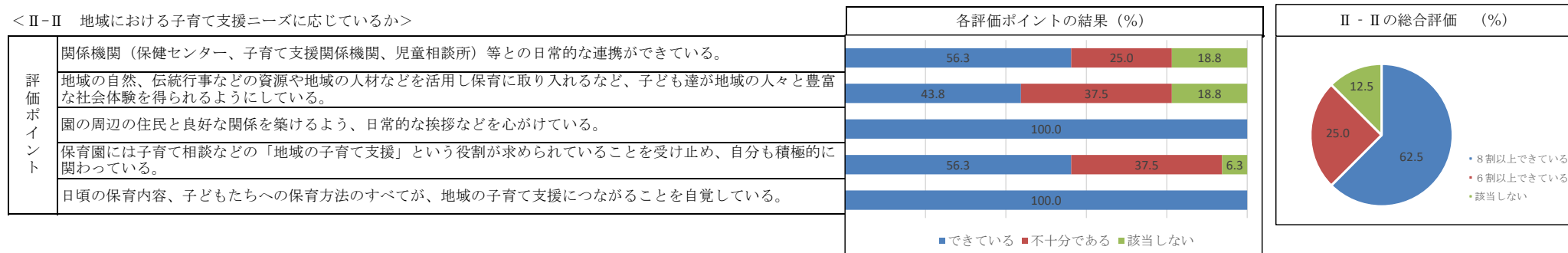


～家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点～

＜Ⅱ-I 個々の保護者との日常的な情報交換に加え、相談等を行っているか＞



＜Ⅱ-II 地域における子育て支援ニーズに応じているか＞



～保育の実施運営・体制全般に係る観点～

＜Ⅲ-I 保育の理念を理解しているか、また受入れ体制は整っているか＞

